

生ける水

発行者
日本福音教会連合
岡山市北区丸の内
1丁目11番15号
理事長 倉賀野 攻
編集長 田 正 信

わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。ヨハネ7:38

目次

P.1	第40回記念聖会へのお招き	倉賀野 攻
P.1	時の声	
P.2	教会巡り① 熊毛キリスト教会	石井 敬子
P.2~3	いのちの雫	川上 新一
P.3	関東地区・春の聖会報告 ..	三浦 愛
P.3~4	中国聖会報告	阿部 俊昭
P.4	報告・案内 etc ...	

日本福音教会連合

第四十回記念聖会へのお招き

岡山中央キリスト教会

牧師 倉賀野 攻

「あなたの神、主がこの十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならぬ」
(申命記八章二節)

二〇一〇年の夏季聖会は、日本福音教会連合第四十回の記念聖会となります。

これまでの愛兄弟皆様方のお祈りと御参加、御協力を心から感謝いたします。

今年の聖会のテーマは、「主に導かれて」です。

冒頭の聖句は聖会の主題聖句の一つです。

エジプトを脱出したイスラエルの民を神様は四十年の間荒野を導かれました。その全ての道を覚えなければならぬ、記憶しておかなければならないということとであります。

私達の日本福音教会連合にとりましても、この四十年間は、いろいろな事が起こり、荒野を歩むような困難もありましたが神様が導いて下さり今日を迎えることができました。この事を

覚えますと感慨無量です。

「覚えなければならぬ」とありますが、文語訳聖書では「記念べし」となっています。

よく覚えて記念とするといい事です。その意味で今年、第四十回の記念すべき聖会です。

私、個人としましても今年七十歳を迎えますが若いころ大病を患い大手術をしました。それが神様が生かして下さい、それから四十年余り元気で伝道

者の端に加えて頂いています。

感謝にたえません。この事を覚えますと私にとりましても

格別記念すべき聖会です。さらに、記念としただけでなく、ヨルダン川を渡るのです。これこそ真の聖会です。

イスラエルの民はエジプトでの奴隷から脱出して紅海を渡りました。これは私達が罪と死との奴隷から脱出して、洗礼を受け新しい生涯に入った事に相当します。新生の恵みです。

その後、イスラエルの民はまっすぐ進まないで荒野を四十年間、同道めぐりをして迷いました。やっとヨルダン川の岸辺に着きカナン地が見える所にきました。そこを渡ればいいのです。ヨルダン川は普段小さい川ですがその時は雨期で水がいっぱいでした。しかし神様が祭司たちに進みなさいと言われました。祭司達は出発し先頭の祭司の足が水面につくやいなやヨルダン川の水がせき止めら



れ乾いたのです。人々はそこを渡りカナンに着きました。これは象徴的にきよめの恵みを意味しています。紅海を渡ったのは新生の恵みを意味し、ヨルダン川を渡ったのは潔めの恵みを意味しています。

新生の恵みだけですとその後とかく信仰生活が同道めぐりをしがちです。きよめの恵みを戴きますと、ぐんぐん成長します。きよめの恵みは信仰によって体験できます。

ヨルダン川の水面に第一歩を踏み出したら水が堰き止められて渡る事が出来ません。信仰とは第一歩を踏み出す事です。「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」

(第一ヨハネ一章七節) 御言葉を信じ「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのはもはやわたしではない、キリストがわたしのうちに生きておられるのである」(ガラテヤ二章十九・二十節)と信じる事、これがヨルダン川を渡る経験すなわちきよめの恵みを戴く経験です。

聖会はその体験をする時です。まさに記念すべき聖会となることでしょう。皆様、万難を排してご出席下さい。聖会でお会いいたしましう。

時の声

「一寸先は闇」は、政治の世界だけではない、人生そのものである。命に関して言うと、体力が無くなって死を迎える。病気が進行して死に至る。これらは本人や周辺の人には心の準備、覚悟がそれなりになされるが、命に別状がないと思われ状況にあつて、病状が急変したり一瞬の事故で死亡すると人の命はかなさ、脆さを思い知らされる。

五月九日(日) 早朝、六歳の孫を敗血症で御国に送った。一晚と言うより、僅か数時間のことであった。

現実が現実で無いような、それでいて、前夜式、告別式と準備を進めなければならぬ現実、現実が夢遊病者のような心持であった。

私たちの命をその手に握り、全ての道を司られる神と共に歩む人生、その神のみ許がなければ髪の毛一筋も地に落ちないと言う神のご配慮。そして、我は復生なり生命なり我を信する者は死んでも生べしと言われるイエス様を信頼する事は何と力強い事か。

「一寸先は闇」ではない。イエス・キリスト曰く。私は世の光である。私に従って来る者は、闇の内を歩く事がなく、命の光を持つであろう。

日本福音教会連合 教会巡り⑪ 熊毛キリスト教会紹介

熊毛キリスト教会
牧師 石井敬子

1979年(S54年)、3年前、熊毛キリスト教会は、キリスト教幼児教育の場としての幼稚園開園と同時に進行で誕生しました。徳山キリスト教会開拓に続く姉妹教会の出発です。長期の労し乍らの伝道から純粹に伝道に打ち込み度いという故石井牧師の願いがかなえられた新たなスタートでした。この開拓伝道に当っては山口福音教会の松田牧師夫妻、連合の先生方、各教会の皆様、近隣の玖珂キリスト教会の牧師ご夫妻信徒の皆様、下松めぐみ教会の藤村先生ご夫妻等多くの皆様の厚きお祈りと応援がありました。パウロの異邦人伝道、初のピリピ教会の誕生の陰には、当地の最初の実ルデヤとその一家、又獄屋衛一家の惜しみない愛の祈り、応援があつて、あの喜びに満ちたピリピ教会が誕生したといわれます。私達の教会も皆様の愛に支えられての今日で、神様は多くの方々の祈りにお



応え下されたことを先ず感謝し報告申し上げます。山口県東部に位置するこの地域は山を切り開いた団地が多く建築が進み、伝道の範囲も拡がっていきました。お子様方も大勢集まり、園では毎週年長さんから年中少さんまで一緒に礼拝をささげました。お子様達は声を張り上げて賛美するのが大好きでした。故倉賀野勇牧師が園児の皆さんに聖書を伝えるために前に出まして「みんな元気ですか」と問



いますと目いっぱいの声で「げんき」と答えるのを楽しみしていました。土曜日には教会学校を開き、石井はワゴン車で遠くのお子様方を送迎したりしたこともありました。信徒の方が腹話術で伝道下さった日もありました。夏には近隣の教会が集まって熊毛キリスト教会が会場となつてキャンプをしたこともありま

ります。一泊二日のキャンプは幼児からスタッフの青年迄。お米が捧げられ、野菜も届きカレーライスを作って思い出多いキャンプとなりました。ワークブックも使われて大人も子供も良き聖書の学びを致しました。この時の経験は各自、主に従い仕えることの喜びを実感したようでした。このキャンプに参加した長男も信仰を明確にし、後日受洗しました。その後神様は長男にお嫁さんを備えて下さり、教会の初穂である姉妹といっし

よに教会学校の奉仕に与つてくださるようになりました。二人の孫達はこの時の祈りと導きを得て救われ受洗致しました。主



イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます(使徒行伝16・31) 神様はこのようにして教会の土台造りを進めていて下さいました。一時建築ブームの波に乗った感の団地でお子様の数も増しておりましてが今は成長されて地方に出て行かれることも多く、当団地

も高齢化が進んでおります。こうした流れの中で長女は平成60(62年迄、関西聖書神学校に導かれ学ばせていただきました。現在主牧の召された後の教会の働きのために縁の下の力もち的働きを担って副牧の奉仕に励んでいます。石井は四年程前から不調でしたので、石井がひとくたりメッセージを語り、声が低い分はつきりと伝え直すという二人三脚でのメッセージ伝達でしたが、昨秋冬、腰を痛め全く起き上がれなくなり、ついに講壇に立てなくなりました日「たのむね」とバトンを渡されました。もつと伝道を続けたかったことと思います。けれども主の最善を信じお委ねした瞬間であつたと思いま

す。最後に石井がみことばを伝え続けたもう一つの伝道ですが、それは結婚式を挙げられる新郎新婦さん方にカウンセルングの時が与えられ積極的伝道のチャンスと聖書より解き証しを続けたことです。この働きは楽しい奉仕であつたようです。三十年前、石井に熊毛の地での伝道のビジョンを与えられた主は今後尚、先頭にお進み下さるかとお信じお委ねして祈ります

いのちの雫

救いの恵み

高松復活キリスト教会
牧師 川上新一

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」エペソ・2:8 中学2年生の時、父親に野球のバットで殴りかかろうとして、取りおさえられて、畑のビワの木に吊されたことがあります。父は若い時に軍隊に入隊し中国からシベリアに捕虜として抑留され辛い体験をしていました。鉄道工事で足に大ケガをして2年で帰国できました。酒に酔つてくると必ずシベリアの厳しい寒さの中でこのことを話して聞かせてくれましたが、時に気に入らないと母に当りちらすことがあります。そんな父を見て何とかして父を黙らせようとしたのです。親に対する反抗心が強くありました。父に殴りかかろうとした自分の性格の激しい行動を反省し、真面目になろうと決心しました。家の手伝いを前より多くしたり、学校ではマラソン大会などで3位内に入った自分なりに頑張りました。そんな生

関東地区・春の聖会の報告

聖泉キリスト教会

牧師 三浦 愛

四月二十九日の木曜日、聖泉キリスト教会を会場に、日本ホーリネス教団・狭山シヤローム教会牧師、内藤達朗先生をお招きして『宣教・行つて、弟子とせよ』というテーマのもと、午前と午後二部の聖会が開かれました。

福音書三三章三二～四九節が開かれ『宣教の原点』という主題から、語られました。宣教の原点はどこにあるのか？何故伝道しなければならないのか？私達の生活とイエスの十字架とがどう関わっているか？という投げかけから始まり、十字架の現場を知らない私達に、聖書を通して、聞いて調べて、自分にとってどのようなものなのか、考える事によって関心の向け方が変わって来るという視点が示されました。そこで、三四節

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。イエス様の執成しの祈りがなされて

いる「彼ら」とは、十字架の上のイエス様の周りにいた多くの人々の姿があり、それらは全て私達と重ねて考える事の出来る罪の姿であります。

①イエス様の着物を欲しがりくじを引く人々、信仰生活が自分にとって益となるかという判断で教会に来ていないか？②立って見ていた民衆、

自分の十字架を負わない姿。③十字架の上のイエスの判断が正しいとする姿。④酸いぶどう酒を差し出す御心とズレていながらも、いい事だと思つて行なっている、御心を求めない姿。⑤共に十字架に架けられた罪人、十字架のキリストが分からない。こんな自分だからこそ、神様の前に赦して頂かなければならない罪がある。私とイエス様との関係を明らかにしなければならぬ、という著者ルカと同じ思いを示されること、そこに宣教の原動力がある事を教えられました。

午後には『キリストと共なる宣教』という主題のもと、コロサイ書一章二一～二九節が開かれ、パウロの生き方が語られました。主と共に福音を伝えるとはどういう事か？何の

午前、ルカ



【第13回】春の聖会 内藤達朗師を迎えて
2010年4月29日(木)昭和の日 in 聖泉キリスト教会

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。イエス様の執成しの祈りがなされて

いる「彼ら」とは、十字架の上のイエス様の周りにいた多くの人々の姿があり、それらは全て私達と重ねて考える事の出来る罪の姿であります。

①イエス様の着物を欲しがりくじを引く人々、信仰生活が自分にとって益となるかという判断で教会に来ていないか？②立って見ていた民衆、

自分の十字架を負わない姿。③十字架の上のイエスの判断が正しいとする姿。④酸いぶどう酒を差し出す御心とズレていながらも、いい事だと思つて行なっている、御心を求めない姿。⑤共に十字架に架けられた罪人、十字架のキリストが分からない。こんな自分だからこそ、神様の前に赦して頂かなければならない罪がある。私とイエス様との関係を明らかにしなければならぬ、という著者ルカと同じ思いを示されること、そこに宣教の原動力がある事を教えられました。

中国聖会報告

中四国地区協議会

幹事 阿部 俊 昭

今春5月2日(日)と3日(月)2日に分けて、講師に倉敷ホーリネス・チャーチ牧師山脇望(のぞむ)先生をお迎えして三回の聖会が会場は岡山中央教会において持たれました。

聖会一テーマ「神の恵みに生

ための信仰か？という投げかけを与えられました。自分のために生きると、神様から離れた生き方となります。パウロは、イエス様が教会のためにどれ程苦勞されているのを知り、世界宣教に出て行く土台が与えられたのです。二七節「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにはいますキリストであり、栄光の望みである。』宣教に行く所にキリストがおられるから、燃える思いを持って出て行くことが出来たのです。宣教は主に出会うための働きなのです。

ける。私達は、神様の導きの中に生きていくもの、現実的に直面する時に、色々な課題に悩まされる時があります。この時、私たちは律法の働きと

活態度を評価してくれ、全校代表として警察署で表彰を受けることになりました。しかし別の面では小父のオートバイを無免許で乗り回したりしてガケから落ちたこともあり

ました。『あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。』

マタイ23・28人の前でもじめに振舞つても心の中は矛盾していたのです。救いの恵みに導かれたのは高校2年の時でした。生まれてはじめて教会の特別集會に兄に誘われて出席しました。当時腎臓を悪くして入院し、だいぶ回復していた時でした。将来に対しての不安、心配がありました。教会に導かれ、先生を通して罪について、十字架の救いについて聖書より話して下さいました。罪をもつ

たままでは天国に入ることができないこと、罪を悔改めて新しく生まれ変わらなければならぬことを教えていただいた。今まで自分中心に生きて来たことを悔改めイエス様を救い主と信じ受け入れられました。1968年12月22日クリスマスの日

に受洗の恵みにあずかりました。J・ウエスレーは受けるに値しない罪人に注がれる自己犠牲的な神の愛と語っています。

神の恵みの働きとの間に立たされ、葛藤を余儀なくさせられることがあるかもしれない。アブラハムに奴隷女との間に与えられたのはイシュマエルであり、人の力によるものでした。おきての子とすることができません。これはある意味で神の望まれたものではありませんでした。正妻のサライとの間に与えられたイサクは、神の力のみによるものでした。恵みの子と言えます。おきてに生きることは、自分をさばき、人をさばきます。ついに、神様をもさばいてしまいます。しかし、神の恵みに生きることは、すべての不可能を越えた神の力に生きることです。

聖会二テーマ「神の強さに生きる」創世記32・22・42
 神と初めて格闘した時のヤコブは自分を認めさせられました。押しつける者として、ずるがしこい者としての自分を知らされました。この自分を知らされたヤコブに対して、自分の強さではなく、神の強さによって生きること、が示されました。



入ったというところイスラエルの民に対して神様は三つのことを求められました。1、割礼を求められました。イスラエルの民が荒野で40年の時間を費やし、まだ割礼が行われていなかった若者ばかりとなったイスラエルの民に対して神様が求められたのは割礼でした。それは、これから向かう戦いの前に獲得するその地はかつて主が約束し主が与えて下さった地、主の御手がある約束の地、という意思を思い起こさせることを目的としていました。神の御手が及んでいて、という意味では私たちに於いてイエス・キリストを受け入れる、ということに心に割礼を行っている、ということと言えます。

した。しかし、イスラエルの民に対しては、黙しているように、鴨居に生け贄の地を塗るよう、と命じられていました。ヨシユアとイスラエルの民に示された過ぎ越しの祭りをするという命令はこれから始まる戦いはこの時のように神の戦いであることの意味でした。

それはまた、私たちにおける現実の戦いもまたこの戦いは、主の戦いなのだから、イエス・キリストを受け入れているということは勝利が約束されている、ということと証しされています。すべての罪は、イエス・キリストの十字架によって洗いよめられている

のです。3、くつを脱ぐことを求められました。すでに立ち向かうとする列強には、今までの連戦連勝によるおそれが浸透しているものの、多くの困難が前に横たわっているヨシユアには不安が多くありました。この思いに対して神様は軍靴の紐を引き締めるどころか、くつを脱ぐことを命じられました。くつを脱ぐ、とは奴隷のしるしです。しもべになる、ということ。教会の主人はイエス・キリストご自身であります。私たちは、イエスさまのしもべとなって仕えていくことこそがこの地上での戦いに勝利していく最大の秘訣なのです。

報告・案内

- ◆聖泉キリスト教会(三浦清重師)では、四月二十五日(日)の教会総会で、三浦愛師が代表役員に就任されました。
- ◆聖泉キリスト教会(三浦清重師)、多摩キリスト教会(鄭順業師)、東京多摩キリスト教会(林主栄師)、の三教会は、五月九日(日)に母の日合同野外礼拝を蕨市民公園で行われました。
- ◆熊毛キリスト教会(石井敬子師)では、五月十六日(日)石井守先生の召天記念礼拝と納骨式を阿部俊昭師(鴻南福音教会牧師)をお迎えして行われました。
- ◆茶屋町復活キリスト教会(戸叶誠師)の岡田哲夫兄(享年76歳)は、五月二日(土)愛する主の御元に召されました。ご遺族の皆様の上に主のお慰めをお祈り致します。
- ◆倉賀野攻師(岡山中央基督教会牧師)と太田正信師(岡山勝榮基督教会牧師)は、六月六日(日)から八日(火)まで、千葉で開催された日本福音連盟第四三回総会・千葉大会に出席され、倉賀野師は理事会書記を、太田師は常務理事としてご用をされました。

第40回 夏季 聖会

主題 **主に導かれて**

聖句 『取るべき地は、なお多く残っている』
 ヨシユア13章1節
 『あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなを導かれたその全ての道を覚えなければならぬ』 申命記8章2節

講師 郷家一二三師(坂戸キリスト教会牧師)
 会場 和気鷓鴣谷温泉(岡山県和気郡和気町)
 会費 22,000円(中学生以上)二泊六食

プログラム

8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)
※講師の郷家師は、日本ホーリネス教団委員長、日本福音連盟副理事長です。	早天祈祷会 6:30 司、三浦正子師 説、三浦清重師	早天祈祷会 司、稲田敏朗師 説、太田正信師
	朝食 7:30	朝食
	第3聖会 10:00 司、阿部俊昭師 説、郷家一二三師	第6聖会 司、加藤信治師 説、郷家一二三師
	昼食 12:00	昼食
受付 13:30	第4聖会 14:00 司、戸叶誠師 説、倉賀野攻師 聖歌隊練習	※第4聖会で創立40周年記念感謝の時を持ちます。
第1聖会 15:00 司、渡辺隆師 説、戸叶誠師	夕食 18:00	夕食
第2聖会 19:00 司、倉賀野攻師 説、郷家一二三師	第5聖会(宣教会) 司、太田正信師 説、郷家一二三師	

主催 日本福音教会連合
 後援 日本福音連盟